

## あの世（パートⅠ）

加藤 誓（ちかい）

【誓のたわごとエッセイ：1 1 三途の川放浪記・1 2 忘れたエコバッグ・1 3 ご接待 の続きです】

夜中2時にトイレのため目が覚めた。

そのあと、何となくパソコンを開き、メールを確認した。

色んな多くの広告メールに混じって



**f Facebook 知り合いかも**：閻魔さん とあり、まさかと思ったが、開けてみると、閻魔大王がニコニコしながら手招きをしている動画があった。

そこをクリックした。その瞬間、私の身体がパソコンの中へと吸い込まれていった。

以前三途の川を放浪した時、見た覚えのある大きな館の赤い門の前に立っていた。門の両脇には黄色と青色の大鬼が金棒を持って立っており、暫くすると館の中から大きな赤鬼が現れ、小さくなって私の前にひざまずいた。

「ようこそ、誓様。いつぞやは、御尊名を間違え大変な失礼を致しました。大王様が過日の京都でのご接待を大変感激なされ、是非とも極楽浄土の観光にご招待せよとのことで、**f Facebook** からご案内させて頂きました。ご到着早々でお疲れとは存じますが、宜しければ早速出発したいと思います。」「チョッとその前にお願い！これからの連絡は **f Facebook** より **LINE** ラインで！」と何故か持っていたスマホで赤鬼とアドレス交換をした。そして、極楽はどんな所かと期待で胸がわくわくした。

赤鬼が合図なのか指を鳴らすと、アニメ「ドラゴンボール」の孫悟空の乗り物である「筋斗雲」がやってきた。赤鬼に続き乗雲すると、マッハ1.5のスピードであちこちの雲の合間をぬって極楽浄土の玄関先に着いた。

その玄関の門は、浦島太郎の絵本にある竜宮城の門に似ていた。門前で「みうめ/メイリア/217」による「極楽浄土」、軽快なJ-POP調の曲とアニメ調の三女のダンスでのお迎えに、うっとりとして眺め聞きほれていた。（お調べ下さい！）



「さあ！どうぞ！」と赤鬼に促され、門をくぐった。

目の前が急に明るくなり、空には天女が舞い、大きな庭園には、蓮の花が満開の池があり、その先に役所と思しき「東京駅」に似た建物があり、大勢の人達はその建物の中へと入って行く。どうも、その人達からは私達は見えないようだ。先に進んだ。

その行列を眺めていると、突然、見覚えのある顔がこちらを振り向いた。

はッとして目が覚めた。パソコンの前に座っている自分に気が付いた。

これからは、いいところなのに！ まあ、いいか **LINE** ラインで連絡できるから！

子供の頃の紙芝居と同じ「この後の話は、乞うご期待！」